ウォーミングアップ

スペイン語を学び始めてから直面する大きな壁の一つに「**接続法**」があります。これはスペイン語の動詞形態である「**直説法**」、「**接続法**」、「**命令法**」の一つです。

このウォーミングアップでは、なぜ動詞が直説法になったり接続法になったりするのかという理由はさておき、1 課から始まる接続法の正体を探る前に、その基盤となる「**文の構造**」を確認しておきましょう。

1. スペイン語接続法を始める前に

スペイン語文の基本的な構造は、以下のように「**単文**」、「**複文**」、「**重文**」の 3 種類に分けられます。

❖ 単文 01

「**主語＋述語**」の関係が「**1 回**」だけで成り立っている文のことです。

Yo hablé con el profesor ayer.
昨日私は教授と話をした。

Pedro me escribe frecuentemente.
ペドロは私によく手紙を書いてくれる。

❖ 複文

「**主節＋従属節**」で構成される文のことです。各節には「**主語と述語**」があり、それぞれ一つの節を成しています。

Nosotros vimos que Carmen estaba hablando con el profesor ayer.
私たちはカルメンが昨日教授と話をしているところを見た。

Aunque Pedro vive lejos, (él) me escribe frecuentemente.
ペドロは遠くに住んでいるが、よく私に手紙を書いてくれる。

❖ 重文

「**主語＋述語**」を持つ「**二つ以上の節**」が、**y** や **pero** などの「**等位接続詞**」で結ばれた文のことです。

Ayer leí una novela española y hoy pienso buscar otra.
昨日私はスペインの小説を一冊読んだので、今日は別の小説を探そうと思う。

Yo estudio inglés **pero** tú no estudias ningún idioma.
私は英語を勉強するが、きみは言語を一切学ばない。

基本的に「**接続法**」は、相手に命令したり指示したりする「**命令文**」や、quizá, ojalá などを用いた願望を表す「**独立文**」でも用いられますが、多くの場合「**複文**」の「**従属節**」に表れます。このとき「**主節の主語**」と「**従属節の主語**」が異なります。ただし、文によっては「**単文**」になるケースもあります（1 課 ❖不定詞の用法 II.「**感覚**」、「**命令、提案、使役**」を表す場合、参照）。

以下は「**スペイン語の法**」に関する「**基本的なルール**」です。本書ではこれにもとづき話を進めますが、これはあくまでも原則であって、同じスペイン語圏でも国や地域によって多少異なるので、実際にはやっかいな文も時折目にします。

直説法

「**発話者**」が世の中の出来事や身のまわりの事象を「**客観的に判断し伝達**」する表現方法です。私情を挟まず、物事を淡々と伝えるときに用いる方法です。ちょうどニュースを報道するような感じです。これに加えて、「**発話者**」が「**確信、信念**」にもとづき胸の内を伝達しようとするときも該当します。

接続法

一方、「**発話者**」の「**感情、主観的見解・価値判断**」を伝えるときに用いる動詞形態が「**接続法**」です。スペイン語の学習が進むにつれ、接続法にさしかかると大半の人が頭を悩ませてしまう「**法**」です。しかし、スペ

1 課

名詞節 ①

最初のステップとなる「名詞節」は、接続法の仕組みを考えるうえでとても重要な鍵となりますので、腰を据えてじっくり考えてみましょう。

1. 接続法の基本

はじめに「**直説法**」か「**接続法**」かの判断基準を下にまとめてみます。「**接続法**」が用いられるのは「**発話者**」の「**主観的判断**」に委ねられるため、場合によってはその軸が揺らぐこともあります。こうしたことを念頭におきながら、下の表にもとづき簡単な例文から見ていこうと思います。ここで大事なことは「ウォーミングアップ」でも触れたように、複文では「**主節と従属節の主語が異なる**」点です。繰り返しになりますが、肝心なことなので再度記しておきます。

主節		従属節
「**発話者**」が「**従属節**」の内容を「**客観的事実**」、「**確信が持てる事象**」として伝える場合	**que** （**接続詞**）	**直説法**
「**発話者**」が「**従属節**」の内容に対し、「**主観的判断**」を下す場合（「**喜怒哀楽**」、「**疑念、否定、不確実**」などの感情を抱く場合）		**接続法**

主節の主語 ≠ 従属説の主語

「**従属節**」に「**直説法**」が用いられるか「**接続法**」が用いられるかの具体的な説明は後述するとして、まずは下記の例文を見ながら、上記の説明の範囲内で「**主節**」と「**従属節**」のつながりを確認してみましょう。（下線：主節に表れる発話者の思い）

▶ 06

Creo que **pasas** el examen.（確信）
きみは試験に合格すると思う。

Creo que **pasarás** el examen.（確信）
きみはきっと試験に合格すると思う。

Creí [Creía] que **pasarías** el examen.（確信）
きみが試験に合格すると信じていた。

No creo que ***pases*** el examen.（疑念、不確実）
きみが試験に合格するとは思えない。

No creía que ***pasaras*** el examen.（不信、不確実）
きみが試験に合格するとは思わなかった。

Pienso que ya **han llegado** allí.（確信、確実性）
彼らはすでに向こうに着いたと思う。

No pienso que ya ***hayan llegado*** allí.（疑念、不確実）
彼らがすでに向こうに着いたとは思えない。

Me parece que la comida de este restaurante **es** muy rica.（確実性、現実的）
このレストランの料理はとてもおいしいと思う。

No me parece que la comida de este restaurante ***sea*** rica.（疑念、不確実）
このレストランの料理がおいしいとは思えない。

Estoy seguro de que ella **ha estado** en España.（確実性、現実的）
私は彼女がスペインにいたことがあると見ている。

No estoy seguro de que ella ***haya estado*** en España.（疑念、不確実）
彼女がスペインにいたと断言できない。

8 課

命令文／独立文

1. 命令文と接続法

「**命令文**」と言っても、上に立つ者が下の者に言いつける強い口調のものから、注意を喚起したり、軽い気持ちで指示したりするものまでさまざまです。

直接相手に命令する文には「**肯定命令**」と「**否定命令**」があります。「**肯定命令**」で「接続法」が用いられるのは下の枠内の場合だけです。「**2 人称単数・複数（tú / vosotros）**」の場合は独自の活用形を用いるので、これを「**命令法**」と言います。

肯定命令	1 人称複数（**nosotros**） 3 人称単数・複数（**usted / ustedes**）	接続法

一方、「否定命令」では「1 人称単数（yo）」を除き、それ以外は「接続法」が用いられます。

否定命令	すべての人称（1 人称単数 yo を除く）	接続法

いずれの場合も、「**発話者**」は相手に対して「命令、指示、要求、依頼、忠告、注意」といった思いを直接発することになるので、「名詞節」ですでに見てきたように、「**発話者の求める事柄**」が「まだ実現していない状況」（非現実的）を意味します。そのため「**命令法**」以外の「**命令文**」で用いられる動詞は「接続法」になります。

「**主語**」の位置は、動詞の前後どちらでもかまいませんが、概して省略される場合が多いようです。

2. 肯定命令

1 人称 [複] **nosotros**	接続法
2 人称 [単] **tú**	命令法
2 人称 [複] **vosotros**	命令法
3 人称 [単] **usted**	接続法
3 人称 [複] **ustedes**	接続法

（[単]：単数／[複]：複数）

① 主語：nosotros ▶ 接続法 73

Invitemos también a nuestros padres a la fiesta.
私たちの両親もパーティーに招待しようよ。

Leamos cuidadosamente las siguientes frases.
いっしょに次の文章を注意深く読んでみましょう。

Escribamos una carta a nuestra antigua maestra.
みんな、私たちの恩師に手紙を書こうよ。

② 主語：tú / vosotros ▶ 命令法 74

主語が **tú** の場合、いくつかの例外をのぞけば、動詞は「**直説法・3 人称単数と同じ形**」になります。主語が **vosotros** の場合は、動詞の語尾 **r** を **d** に変えます。

Invita también a tus padres a la ceremonia.
きみの両親もセレモニーに招待しなよ。

練習問題

1課

1 1. ～ 3. の各例文を参考に、従属節の主語を変えず、a. 以下の文では発話者の思いが込められた主節の内容を考慮し動詞を変化させてください。

1. Sé que estudias inglés y español.
きみが英語とスペイン語を勉強していることは承知だ。

a. Quiero que（estudiar →　　）inglés y español.
b. Supongo que（→　　）inglés y español.
c. Te ordeno que（→　　）inglés y español.
d. Necesitamos que（→　　）inglés y español.
e. Me alegro de que（→　　）inglés y español.

2. Estoy contento de que me haya invitado Ignacio.
イグナシオが私を招待してくれて嬉しい。

a. Es lamentable que no me（→　　）Ignacio.
b. Tengo envidia de que te（→　　）Ignacio.
c. Imagino que te（→　　）Ignacio.
d. Estoy enojado de que no me（→　　）Ignacio.
e. No me sorprende que me（→　　）Ignacio.
f. No me importa que no me（→　　）Ignacio.

3. Vi que algunos charlaban a voces en la calle.
通りで声を張り上げ喋っている人たちを私は何人か見た。

a. Es una vergüenza que algunos（charlar →　　）a voces en la calle.
b. Me preocupa que algunos（→　　）a voces en la calle.
c. No deseamos que algunos（→　　）a voces en la calle.
d. No me agradó que algunos（→　　）a voces en la calle.
e. Te digo que algunos（→　　）a voces en la calle.

2 主節の動詞の時制に合わせて、従属節の動詞を「現在完了」または「過去完了」に活用させ、スペイン語文を和訳しましょう。従属節の主語が指定されている文では、その指示に従ってください。

1. Me alegro de que（terminar: tú →　　）tu tarea pronto.
（　　）
Me alegré de que（terminar: tú →　　）tu tarea pronto.
（　　）

2. Me extraña que Pedro（pasar →　　）por Tokio sin avisarme.
（　　）
Me extrañó que Pedro（pasar →　　）por Tokio sin avisarme.
（　　）

3. Agradecemos que nos（escribir: tú →　　）de vez en cuando.
（　　）
Agradecimos que nos（escribir: tú →　　）de vez en cuando.
（　　）